

(7) 今後について

今回、ミニ気流可視化装置によって、キノコ模型の周囲に発生する気流に関してはある程度、肉眼で確認できることが分かった。

その結果、カサ形状であれば、カサ頂上の風下側で巻き込み気流が発生し、カサ裏側に空間を持つような Type C は、それに加えてカサ下側の風下でも巻き込みの気流が起こるようであった。

実際には形状分類上、Type C に属するキノコや、カサが開いていく過程で Type C となるキノコは様々あると思われるが、カサ裏側の空間の体積、空間形状、カサの縁の厚さ

などそれぞれ異なるため、更に調査が必要だと考える。

今後は、実際のキノコあるいはサンプルなどで実際に発生する気流の可視化を風速の影響を含めて確認してみたいと思う。

※1

国立大学54 工学系学部ホームページ

長崎大学大学院工学研究科

総合実践教育研究支援センター

<http://www.mirai-kougaku.jp/laboratory/pages/130109.php>



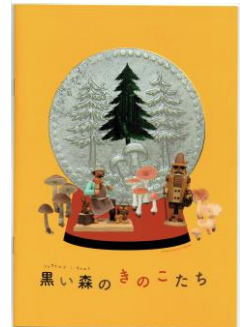
シュヴァルト・ヴァルト

【開催報告】

黒い森のきのこたち

—ヨーロッパ・ドイツ圏のきのこコレクション—

2017年2月7日～2月12日まで、銀座5丁目にある「GINZA HAKKO 木の香」さんに於きまして、クルミ割り人形や煙だし人形などの木工芸品、ガラスオーナメント、洗練されたデザインのおもちゃたち、カードなどの印刷物などのきのこグッズ約150点ほどを展示いたしました。「黒い森」のなかでも南西部にあるシュバルツバルト Schwarzwald は有名です。「黒」は森がおもにモミやドイツトウヒなど常緑の針葉樹で構成されていることからきています。闇や影、未知の空間、異空間などのイメージ。ドイツの森はるか遠く、わたしたちとは無関係とおもわれがちですが、ドイツが誇る世界的な童話『グリム童話』にでてくる『白雪姫』、『赤ずきん』、『ヘンゼルとグレーテル』などはここを舞台とするものです。わたしたちは物語を通じ、いつしかこの遠い森とふれあっていたのです！天然林、管理された植林に関係なく、それらの樹木と外生菌根で結ばれているのが、ベニテングタケとヤマドリタケ。ドイツ圏にこれらグッズが多いのには一部そんなわけもあったのですね。会期中は、大作晃一・吹春俊光両氏による「日本でもみられるヨーロッパのきのこ」講演会もあり、大作氏の美しい写真と解説を楽しみました。会場には、片山周子さんの原画（78ページに関連記事）やきのこやネコのマトリョーシカ、kinoko-mono の浅井土筆さんの精巧なきのこやカエルの彫金とウッドバーニングを施した作品も並びました。展示に関する、かわいい冊子を制作いたしましたので、ご興味のある方は、GINZA HAKKO 木の香さんへお問い合わせください。次回開催は2018年6月を予定しております。（北川公子）



展示風景と片山周子さん（中）、kinoko-mono 浅井土筆さん（右）の作品